

ホームページ公開用

膵周囲液体貯留に対する超音波内視鏡ガイド下治療の有用性の検討

・はじめに

膵周囲液体貯留(Pancreatic fluid collection : PFC)は、急性膵炎、慢性膵炎、膵切除術後、外傷後などにより生じる膵液の漏出、浸出液の貯留、壊死物質の液化化などにより生じます。近年PFCが被包化され嚢胞状となったもの(膵仮性嚢胞、膵壊死、術後膵液瘻)に対して超音波内視鏡ガイド下治療(内視鏡的ドレナージ、内視鏡的壊死物質の除去)の有用性が多数報告されています。本邦の急性膵炎診療ガイドライン2010(急性膵炎診療ガイドライン2010改訂出版委員会編. 金原出版, 2009)ではPFCの中でも感染性膵壊死はEUSガイド下治療を含めたインターベンション治療(手術、IVR、内視鏡治療など)の適応としています。また2013年改訂された欧米のIAP/APAガイドライン2013(Working Group IAP/APA. Pancreatology 2013)では膵壊死に対して経皮的、経後腹膜的、経内視鏡的ドレナージをまず行い、その後必要な症例に対して外科的もしくは経内視鏡的に壊死物質の除去を行う事が推奨されています。以上のように急性膵炎後のPFCに対する超音波内視鏡ガイド下治療の有用性は多数報告されています。しかしながらPFCの原因毎の治療の有用性、安全性の違いについてはまだわかっていません。

本研究は、急性膵炎後のみでなく術後及び外傷後のPFCに対する超音波内視鏡ガイド下治療の有用性、安全性を検討することにより、PFCに対する超音波内視鏡ガイド下治療のより適切な適応を検討する事に貢献し、有意義な研究です。

・対象

2002年12月1日から2015年6月31日までの期間に、九州大学病院にてEUSガイド下治療が施行された膵周囲液体貯留の症例46例を対象とします。特に除外基準は設けません。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

九州大学病院にてEUSガイド下治療が施行されたPFCの患者さんで、下記①-③の情報を過去にさかのぼって調査します。

- ① 患者情報(年齢、性別、最終生存確認日、経過観察中の再発の有無、経過観察中の死亡の有無)
- ② 検査に関する情報(手技施行日、嚢胞径、嚢胞の部位、嚢胞内容液の性状、嚢胞の成因、手技の詳細、手技成否、嚢胞縮小の有無、治癒の有無、合併症)

この研究は過去の情報を使用しますので、患者さんに新たな負担や不利益が生じることは

ありません。研究計画書及び研究方法に関する資料を入手・閲覧されたい場合は、下記連絡先にご連絡頂ければ、入手・閲覧ができます。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、患者個人情報は匿名化を行い、氏名、生年月日等の個人情報は施設外には出さず、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

個人情報の開示を希望する場合は、本人等から下記連絡先にご連絡頂ければ、開示することができます。

・データの二次利用について

本研究で得られたデータは、研究終了後も平成42年3月31日まで九州大学大学院医学研究院・病態制御内科学内に設置されたコンピューターにて、パスワードを設定し管理します。当該期間終了後はコンピューターよりデータを削除します。本研究で得られたデータを、研究中または研究終了後に、別の研究に二次利用する可能性があるが、その場合は、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用させていただきます。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成32年3月31日までです。

・医学上の貢献

本研究により対象となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、研究成果は将来、PFCの方へのEUSガイド下治療をより適切に行うという点で貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

研究機関:九州大学病院

研究機関の長:九州大学病院長・石橋 達朗

研究責任者:

九州大学大学院医学研究院病態制御内科学・准教授・伊藤 鉄英

研究分担者:

九州大学病院肝臓膵臓胆道内科・診療准教授・中村 和彦

九州大学病院肝臓膵臓胆道内科・助教・伊原 栄吉

九州大学病院光学医療診療部・医員・小副川 敬

連絡先:〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院病態制御内科学 消化器研

究室 Tel:092-642-5286

担当:小副川 敬